

# 常総学院同窓会会報

発行／常総学院高等学校同窓会 編集人／同窓会会報編集委員会  
委員長／飯田晃久 印刷／アイテムプロモーション（株）



ここ最近の日本を取り巻く状況は、政治経済面では従来のやり方が通用せず閉塞感が漂い、大震災や竜巻など大自然が猛威を振るい、非常に不安定な時代に突入しています。一人一人が確固とした価値観を持って生きていくのがますます難しくなっています。なかにあつて、特に私学教育の果たす役割はそれだけ大きくなつてきているように思われます。

さて、昨今の日本を取り巻く状況から今後どのような人材が求められるのか考えてみたいと思います。日本はこの20年間市場原理主義の嵐が世界中に吹き荒れかつての1億総中流という均質な社会から、特に24歳以下の若者の非正規雇用率が半数以上、つまりきちんとした仕事につけていない若者が半数以上という非常に不安定な、将来に対して希望がなかなか見いだせない状況にあります。物作り・技術力に代表される自然科学分野は山中教授のノーベル医学・生理学賞でもわかるように世界の最先端を行つているのに、最近の日本を取り巻く国際情勢



卒業生の皆様へ  
常総学院中学校・高等学校  
校長 玉井尚良



は非常に厳しいものがあり、有効な手だてを打っているように思われません。国際政治の場で、外国の要人との会談で、あるいは外国企業との交渉で日本を代表してしっかりと交渉できる人材、グローバル人材の育成が今後は急務であると思われまます。

その為に必要とされる資質はプレゼン能力を身につけること、さらに論理的思考力を身につけることです。昔から日本の教育において大学までこの2点がなござりにされてきました。全く訓練を受けることなく社会に放り出されるわけですから戸惑うのも当然です。具体的に本校では、1点目として社会の様々な出来事に対して自分なりの意見を持ち、それをクラス全員の前で発表する1分間スピーチを行っています。2点目として、クラスディスカッション・ダイアログを取り入れていきます。自分からの意見の発信ばかりではなく、相手の意見を聞いてそれに対して論理的に反論することが必要です。さらに物事をロジカルに論理的に考える訓練にもなります。これらは直接的には大学推薦入試でのグループ討論や、小論文、英語の自由英作文等、全て論理、ロジックが必要とされるものばかりですので、入試でも生きてきます。更に中学校

ではキャリアアゲインダンスの二環として自由課題研究を行っておりまます。自ら課題を見つけ、仮説を立て、思考実験などを通して検証し、3年次に発表といった形で今進行中です。

一日も休まず登校し、大学に合格できる基礎学力を身につけることが基本中の基本ですが、それだけでは必要条件に過ぎません。この時代状況にあつては、プレゼン能力と論理力を身につけてこそ十分条件になりうると思われまます。

以上のような取り組みの結果これまで、東大の理科Ⅲ類を始めとして東大に39名が合格しております。今年も東大文科Ⅰ類を始めとして京都大学、東京工業大学、東京外国大学、さらに筑波大に10名、茨城大に25名、早慶上智が41名、明治・立教・中央などのいわゆるG・U・M・A・R・C・Uで135名、医学部医学科に国立3名を含む10名等、着実に進路を切り開いて参りました。更に中学校でも、ここ2年ほど過去最高の成績を上げています。1つ先輩の高校1年生の全国模試で学年の平均偏差値が、県立の進学校の県南上位校や県西トップ校を抜き、アドバンストクラスは県内1の進学校に対して1.2ポイント程上回りました。

す。(株)大学通信の「私立中学校・高等学校受験年鑑(2012年度版)」では首都圏の学習塾が勧める中高一貫校として、過去3年分の実施結果を集計したものを掲載しております。「入学時、生徒を伸ばしてくれる私立中」の項目で首都圏で第2位、「入学時の偏差値に比べ、大学合格実績が高い私立中」で同3位、「面倒見が良い私立中」で同4位、「生徒や保護者に勧めたい私立中」で同7位等と高い評価を頂いております。

常総学院は今年31年目に入りました。高校創立以来2世代が経過したことになり、巣立った卒業生は20・057名にのぼり、会員の皆様の「子弟が常総2世として入学してくる例が目立つよう」になってきました。本校の教育理念や進学実績そして雰囲気、が徐々に評価されてきているのではないと思われまます。

学校とは、地域社会も含めOB・OGの皆さんと共に成長していくものです。皆さんも周りの方に対してこの常総をしっかりとPRして頂き、皆さんと共に次の世代に対応した常総を築いていければと思います。今後とも、母校への支援の程、宜しくお願い致します。

# 卒業生からの Letters from alumni 便り

## 弁護士になつて

第18期生

角谷史織

過渡期にあつて旧司法試験の合格者人数が減少していたこと、自分の勉強不足から、旧司法試験に合格することはできませんでした。大学4年次、新司法試験の受験資格を得るため、中央大学法科大学院を受験し、3年コースで入学して、司法試験の勉強を続けました。法科大学院では、大学時代以上の勉強をしました。仲間と自主的なゼミを組み、過去の問題を解き、議論をする。そんな毎日でした。授業の予習も決して少なくはありませんでした。そして、1度目の受験で新司法試験に合格することができました。1年間の修習期間を終え、2012年12月から東京にて弁護士としての業務を開始しました。現在は、法律相談や依頼者との打合せ、裁判期日への出席をする毎日を送っています。法律に向き合う充実した毎日でこれまで努力してきたことがよかったです。

私は、中学生の頃から、弁護士になりたいと思つていました。そして、その夢を叶えるためには、まずは学習環境の整った法学部のある大学に進学しなければならぬと思い、学習指導に熱心な常総学院高校に入学しました。3年間、本当に熱心に指導していただきました。

高校を卒業してからは、都合により1年浪人生活を送りましたが、その後中央大学法学部に進学し、入学直後から旧司法試験合格を目指して受験勉強に励む傍ら、一般教養や語学を含む大学の授業に出席する、という生活を送っていました。長いときは大学

が開く午前8時頃から、閉まる午後11時まで、司法試験対策の学習をしていました。しかし、旧司法試験から新司法試験への移行の

私は司法試験の合格までに7年を費やしましたが、勉強ばかりの辛い7年間を乗り切ることができたのは、常総学院で鍛えられていたおかげだと考えています。予習も復習も少なくないうえに、片道1時間半をかけて通っていた私には、楽しい反面とても厳しい日々でした。しかし、今となっては、常総学院での生活がなければ司法試験には合格できなかったと、本当に感謝しています。勉強が苦にならない、そんな指導をしていただいたのだと思います。





# アートの頑張ってます。

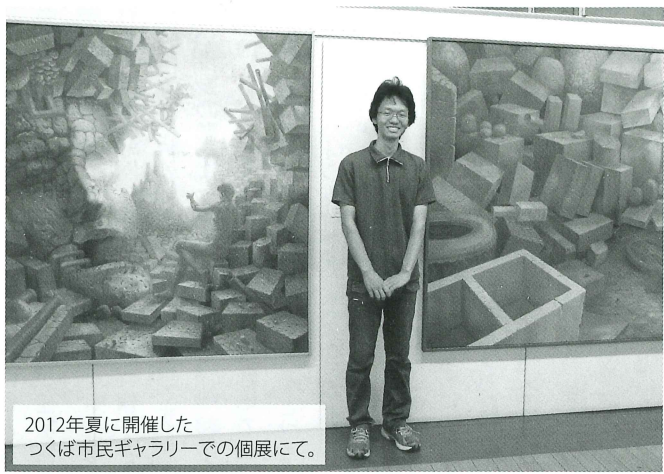
第19期生

井上 琢

私は今、画家として創作活動をしてい  
ます。絵を描いてコンクール出品することを主  
体として、人に頼まれて絵を描いたり、絵画  
教室を主宰するなどしています。

まだ作家活動を始めたばかりでそれだけ  
では生計が立たないのでアルバイトなども  
やっています。昔から絵を描くことが好きだ  
ったので画家になって良かったと思います。

どうして画家を目指すことになったかと  
いうと、高校時代に進路に迷っていたとき、  
子供のころから絵を描くのが得意だったの



2012年夏に開催した  
つくば市民ギャラリーでの個展にて。

で、その得意分野を生かせる仕事につくのが  
いいと思ったからです。当時通っていた絵画  
教室の先生のすすめもあって、美術大学を受  
験しました。常総学院で所属していた美術  
部から全日本学生美術展に出品し、金賞をい  
ただいたことも美術大学を受けるきっかけ  
になったと思います。しかし、普通科からの  
受験では美術大学に入ることが難しく、2  
年間修行したのち志望した大学にはいるこ  
とができました。

美術大学では実際に第一線で活躍されて  
いる画家の先生たちに油絵を教わりまし  
た。毎日時間を忘れて制作に取り組み、作品を  
たくさん作りました。大学の展示スペースを  
使い2度個展を開き、作品の展示方法など  
も研究しました。

しかし難関の美術大学を卒業したとはい  
え、すぐに画家としてやっていけるとい  
うわけではなく、一般大学と同じように企業に就  
職したり学校の美術の教員になる人も多い  
ということがわかりました。しかし、そもそ  
も画家を目指してきたという一番最初の意  
志のとおり、修士課程に進みより専門的な  
研究をすることにしました。

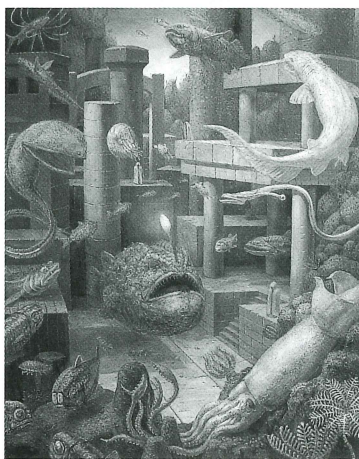
2012年春に大学院を修了してからは  
本格的に作家活動をはじめ、まずは地  
元のつくば市で個展を計画しました。9月に  
開催したつくば市民ギャラリーでの個展で  
は、たくさんの方々に見ていただきまし  
た。常総学院の先生方にも来ていただき  
そう励みになりました。初めての本格的な  
個展は今後の活動のためにも大変有意義な  
ものになりました。つくば市は科学の町とし  
ては世界的に有名ですが、アートに対しても  
さらに力を入れてもらえるのが嬉しいです。

大学院時代からこれまでさまざまなコン  
クールに出品し、入選や入賞が重なることが  
自分にとって大きな励みになっています。

2013年8月には銀座で個展を開催す  
ることができました。つくばでの個展とは  
違い専門家も含め、より多くの人に自分の作  
品を見ていただける機会になりました。

私の描く絵のテーマは子供のころに見た  
自然や生き物、風景を主体としています。そ  
こにこの時代に生きる人々の有り様から感  
じ取った想いを込め、それを現実にはない光景  
を組み合わせて構成する方法で絵を描いて  
います。

これからも自分の世界を展開し、表現の  
可能性を模索して人の心に残るような絵を  
たくさん描いていきたいと思います。



## 経歴

2012年	武蔵野美術大学大学院修士課程 造形研究科美術専攻 油絵コース修了 上野の森美術館大賞展 二紀展 その他コンクール入選、入賞等
2013年	個展 画廊るたん 銀座 8月5~10日

作品名「深淵の宴」  
制作年:2012年、サイズ:91×72.7cm  
素材:油彩  
世界絵画大賞展 協賛社賞受賞作品

# 親子二代「常総生」

第4期生 藤野 明美

私は常総学院高校第4期生です。そして  
現在、常総学院中学校3年生の保護者でも  
あります。私が常総生だった頃と今とはだ  
いぶ様変わりしていて驚きの連続です。こ  
こでは当時を振り返りながら、今の常総学院  
とでは何が違うのか比較してみたいと思  
います。

まず驚いたのは給食です。温かいご飯とお  
味噌汁、おかずの種類の豊富さ。私たちの頃  
も土曜日はカレーでしたが、当時はお弁当  
箱に入っていて冷たく固まったゼリー状のお  
箸で持てるようなカレーでした。今は、サラ  
ダ、デザート、飲み物までが付いていて、い  
ろんな意味で「おいしい給食」になっていた  
のには感動しました。

次に、くつ箱と上履き。10期生くらいまで  
は、教室の前にくつ箱があり教室の前で履き  
かえていました。特筆すべきは当時は上履き  
ではなく健康サンダルだったこと。しかも学  
年色。サンダルなのでムシる心配はありま  
せんでしたが、ビニール製なのですぐに裂け  
てしまい、実に不健康な健康サンダルでした。  
さらにはスクールバスの多方面にわたる  
運行の拡充には目を見張るものがありまし  
た。当時は荒川沖駅と土浦駅2方面のみで、  
自転車・徒歩以外は鉄道・路線バスを乗り継  
いで通学していました。今は通学も便利にな  
り、利便性・安全性が向上されたと思います。



昨年夏、常総学院は3年ぶり14回目となる甲子園出場を果たしました。私が在学当時も甲子園での応援に参加する機会に恵まれましたが、今回は感慨もひとしお。親子ともに甲子園に行くことができたからです。息子が現役の常総生、そして卒業生の私。親子二代にわたり、あこがれの甲子園球場で母校の応援ができ、一緒に校歌を歌えるという思い出の1ページを作ることができました。

現在は、かなり緩和されている校則ですが、在学当時は県内でもトップクラスの厳しさでした。しかしながら時代とともに内容は変化し、私たちの頃とは比べようもないほど優しくなっているようです。在校生のみなさんは、他校と比べて「自由がない」「厳しい」と思うかもしれませんが、常総生である以上校則は守らなければなりません。しかし、この厳しさも勉強の一つ。今後みなさんが社会に出た時に大きな糧となり役立つことと思えます。

私は高校時代の3年間、同じ担任の先生でした。先生はそれはそれは厳しい先生で、厳しいというより怖い先生でした。クラス替えの時、クラスが別々になった友達はこの頃の担任は〇〇先生だよ」と喜んでいて、私は「また怖い先生だ」と沈んでしまうくらい怖い先生でした。しかし今になってみて「厳しい・怖い」「愛情の深さ」ということがよく分かります。在学当時は反省よりも反発するのが先でした。うるさくて仕方ありませんでした。しかし社会に出て大人になつていく中で、こんな自分のことを本気で心配し、本気で叱ってくれたのだと思えるようになりまし。

子供の成長を願わない先生などいないと



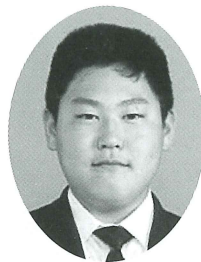
私は思います。息子が常総学院中学校を受験したと言った時には、「まさかうちの子が常総に？」と正直戸惑いました。でも入学式当日、式場を見渡すと少々お年を召した当時と同じ先生の顔ぶれがあることにとても安心しました。と同時に、私が常総生の頃厳しくも親身になってご指導下さった先生方が常総学院という教育の現場において、今も意気軒高に生徒たちとふれあう姿を見て、当時と何ら変わることはない「常総魂」を実感しました。子供にとって最大の教育環境は先生であり、親自身です。常総学院の先生方はそれを身をもって示して下さいおられます。

子供にとって親が卒業生というのは、嫌な時もある良い時もあると思います。学校行事のことで「昔はどうだった？」と聞いてきたりして、当時と今とを比べている様子も時々目にします。息子は思春期という難しい年頃を迎えています。が、「常総学院」という共通の話題で親子の会話ができることは私にとって楽しみであり喜びです。この気持ちを大切にしながら、常総学院の「伝統」と「常総魂」をこれからもずっと後輩のみなさん方と共有していきたいと思えます。

## 在校生の活躍 (中学校)

### 母が卒業生

土浦市立中村小学校出身 藤野 かずき 和輝



僕は常総学院中学校第16期生の中学3年生です。

そして、僕の母は常総学院高等学校の卒業生です。

学校で母の事を知っている先生達に名札を見られて、すぐに「藤野の子供か？」と聞かれて、入学したての頃はものすごく嫌でした。でも今は「お母さん元気か？」と母の事を知っている先生達に聞かれたり、母の学生時代の事を話してくれたりするのでとても嬉しいです。

マラソン大会の練習をしていた時に、母の3年間担任だった先生に「頑張れ～」と声をかけてもらった事が嬉しかったです。ただ母の時代のマラソン大会は女子-12km 男子-15kmだと聞いて驚きました。会場は今と同じ洞峰公園でしたが、洞峰公園から走り、つくばエキスポセンターを折返し地点として走ったそうです。練習の時は、学校から常磐高速道路沿いを走り、東大通りまで走って先生にマーカーペンで手に印をつけてもらってからUターンし学校に戻るコースで、アップダウンがかなりきつかったという話も聞きました。僕たちの練習コースは学校の校舎周辺の敷地をひたすら何周も走るコースです。実は僕はマラソンがあまり好きではないので、母の時よりも距離が短くなって、練習コースもアップダウンがないので良かったと思いました。

あと給食の事です。常総学院の給食は、小学校の給食と比べてご飯・お味噌汁はおかわり自由ですし、おかわりにたくさん種類があつてとてもおいしいです。



母の時代の給食はお弁当箱で、おかずとご飯の2つの容器に分かれていて冷たくておいしくなかったと聞いて驚きました。僕たちはご飯のメニューの時はお茶碗によそって、温かいご飯・味噌汁が出て幸せだと思いました。もうひとつ、母から話を聞いて驚いたことは、当時給食の時には、当番が給湯室にお茶の入ったやかんを取りに行き、コップがないので、ご飯の入ったお弁当箱の容器にお茶を入れて飲んだということです。今は、給食の時には牛乳やジョアが一人一人に出ています。

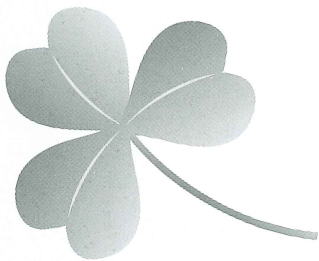
中学校では小テストやテストの順位が全て掲示板に張り出されます。母の時代には順位の張り出しはないと聞いて正直羨ましいです。

去年の夏、母と一緒に一回戦大分・杵築高校との対戦で応援をしに甲子園に行きました。新幹線の中で母から当時の甲子園の話や出来事など色々聞きました。中学生は甲子園に応援しに行く時は保護者同伴ですが、高校生になれば応援バスで友達と甲子園に行けるので、高校生になるのが楽しみです。

ただ僕は甲子園球場が初めてだったので、応援しに行ける事がとても嬉しかったのですが、甲子園のアルプス席で母は生徒より夢中になって応援していました。僕はその姿を見て少し恥ずかしくなりました。

たまに母が「〇〇先生は怒ると怖いよ」と言う時があります。僕からみた〇〇先生はとても優しい先生で怒った所を見た事が無いのです。何で母が怒ると怖いというのか僕には謎です。先生達にこれから母の学生時代の事を聞いてみたい気もしますが、聞かない方がいいのかなとも思います。

親子そろって「常総生」。常総に来て本当に良かったと思います。



## 常総学院に入学して

石岡市立杉並小学校出身 内田 日和



常総学院中学校に入学して、3ヶ月が経ちました。

4月、緊張に包まれて静かだった教室も、今では友達も増え、自然に居心地のよい場所となっています。それはきっと、先生方やクラスの仲間と過ごす中で、たくさんの学校行事や活動があったからだと思います。

5月には「Nice to meet youキャンペーン」を体験しました。授業で学んだ英会話で先生方や先輩方とコミュニケーションを取り、たくさんの人と笑顔で言葉を交わすことができました。

6月には、体育祭がありました。天候にも恵まれ、クラス対抗で種目を競い、応援することで、クラスが団結することができました。そして、私の1年2組は優勝することができ、とても嬉しかったです。また、私が入部した剣道サークルは体育祭の準備や招集係を担っていたため、担当する役割に積極的に参加し、責任を持って取り組むことの大切さを学ぶことができました。

それからすぐに、2泊3日の学習合宿がありました。クラスの皆と朝から晩まで生活を共にし、勉強することによって、学習意欲を刺激し合うことができ、友達との距離もぐっと縮みました。また、親元を離れて、食事や就寝の準備に気を配ったり、時間を意識して行動したりすることで、中学生としての自覚を持つことができるようになったと思います。

このように、常総学院中学校は勉強面だけでなく、様々な学校行事を通じての心の教育にも力を注いでいると実感しました。

私にとって、常総学院での中学校生活はまだ始まったばかりですが、毎日がとても充実しています。このような整った環境に感謝して、与えられたチャンスを活かしていきたいです。そしてこれからも、夢に向かって全力で前進していきたいと思っています。





# 2013 夏の甲子園

～野球が僕らを一つにした～

2013年夏の甲子園 試合結果	
1回戦	
対 北照高校(北海道)	6-0
2回戦	
対 仙台育英高校(宮城)	4-1
3回戦	
対 福井商業高校(福井)	9-1
4回戦	
対 前橋育英高校(群馬)	2-3

2013年夏、常総学院野球部は、3季連続で甲子園出場を果たしました。7月25日(木)に行われた茨城大会決勝では、霞ヶ浦高校と対戦し4対2で勝利しました。この決勝戦は、9回裏2アウトでの4番内田靖人のホームランによるサヨナラ勝ち、という劇的なものでした。その後野球部は甲子園へ赴き、優勝した2003年以来10年ぶりとなる8強入りを果たしました。

## 第95回全国高等学校 野球選手権大会出場

2013年の夏は、いつになく暑い日々が続きました。のどもと過ぎれば、という言葉がございりますが、過ぎてしまえばあの暑さも少し懐かしく感じたりもします。皆様はいかがでしたでしょうか。さて、暑さにはなりながらも、感動に胸を熱くするのもまた、夏であります。今年も常総学院野球部が夏の甲子園に出場いたしました。同窓会会員の皆様におかれましては、寄付等の同窓会活動の趣旨へのご賛同、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。今後とも同窓会として、野球に限らず後輩たちの力になるべく活動をしていきたいと思います。よろしくご協力お願いいたします。



## 第26回U-18野球 ワールドカップ 日本代表に2名選出

甲子園での活躍を認められ、第26回U-18野球ワールドカップ日本代表に2名の選手が選出されました。1人目は、甲子園で4番を務めていた内田靖人選手。日本代表でも4番を務めました。2人目はエースピッチャーであった飯田晴海選手。日本代表では背番号1を付けました。日本代表は決勝戦でアメリカと対決し、惜しくも2対3で惜敗しましたが、両選手とも世界を舞台に堂々とした姿でプレーをしました。初のワールドカップ優勝は来年度に期待したいと思います。







## 野球部より

この度の「第95回全国高等学校野球選手権大会」の出場に際し、本校野球部に対する多大なるご支援、ご声援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

全日本選手に選出された飯田君、内田君を中心として、吉澤主将が先頭となり三年生全員がチームを牽引し、70名を超える1、2年生が一丸となって自分の役割を果たしてくれました。ベスト8に進出、国体への出場権を獲得し「さあ、これから」という準決勝で前橋育英高校に、思わぬアクシデントが重なり敗退したことは、甲子園球場から新たな課題を与えられたようでした。

新チームには『四季連続』を目標に掲げました。今以上に皆様からご声援いただけるようなチーム作りを目指して、野球部一同精進していきます。

今夏、県大会から甲子園大会まで何の心配もなく過ごすことができましたのは、皆様のご協力の賜物であると重ねて御礼申し上げますとともに、今後益々のご指導、ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。御礼とご報告にかえさせていただきます。

(野球部スタッフ一同)



# 部活動実績

平成24年4月～平成25年8月

## 三年間を通して

剣道部3年 増田 汐美

私は、宮田先生のご指導のもと、日々練習に励み二年連続で関東大会に個人で出場することができました。

一年生の時に選手として関東大会で試合することができず、来年こそは自分も選手として関東大会で試合がしたいと思い今まで練習してきました。最初は、上段という他の人とは違ったかまえ方で本当に勝っていきけるのか不安でしたが、頼りになる同級生女子四人

やたくさんの方々の支えによりこのような結果をだすことができました。

関東大会では、入賞することはできませんでしたが、気持的にも今まで経験することがこの二年間で経験することができました。

この経験を将来に活かしていきたいと思えます。



## 関東大会に出て

女子バレーボール部 山口 恭佳

関 真奈美

私たちが女子バレー部は、関東大会出場を目標に日々練習に励んでいました。その練習は一つ一つ決

して楽なものではありませんでした。でも、全員が関東を目指してやっていたので辛くなっても、絶対に関東に行く！という気持ちでどんな練習も部員丸となって乗り越えてやってきました。そのため関東への切符をつかんだ時は、チーム全員が心から喜びました。練習はすごく辛いものですが、やってきたことが無駄ではなかったと実感しました。関東大会出場が決定した後は、部員一人一人が常総学院女子バレーボール部としての誇りを持ち、学校での行動面、練習への態度をより良いものに変えていこうと意識して毎日を送りました。

本番の関東大会当日には、今までにない緊張感がありました。体育館の広さや雰囲気は圧倒されてしまい、自分たちの力を出しきれずに試合は終わってしまいました。その時に痛感させられたことは、自分達の力不足や精神面の弱さです。この悔しさを忘れずに、今まで以上に高い意識で日々の練習に取り組み、次は春高を目標にし、頑張っていきたいと思います。



## 関東大会で学んだもの

女子バドミントン3年 森戸 陽加

私たちが女子バドミントン部は、5月31日から6月2日にかけて茨城県ひたちなか市で行われた関東大会に出場しました。

地元開催ということもあり、たくさんの方々から応援してくれている中、一人一人が全力を出して望んだ試合でしたが、昨年の先輩たちの結果を超えることができませんでした。ベスト8という結果に終わってしまいました。しかし、この大会を経て試合に臨む気持ち次第で、結果を変えることができると

いうことに気がきました。

自分たちの可能性は無限大で、やれることはまだまだたくさんあります。結果を変えるのは自分次第。自分を変えるのも自分次第。その反省を十分に活かし、8月に行われる全国大会では、この悔しさを晴らし、皆さんに良い報告ができるよう一日一日を大切に努力し続けます。

これからも応援よろしく願いします。

## 関東大会初出場

ソフトボール部3年 村松 孝介

初出場でもかえり関東大会の一回戦は、東京都一位代表の大東文化大学第一高校。一つでも上位の順位を目指していたので絶対に負けられない試合でした。先制したのは我ら常総学院でした。しかし、次の回に同点に追いつかれ波乱の展開になりました。でも、今年のチームは接戦には滅法強いのでこの乱戦を5対4で勝利しました。



一回戦の勢いで望んだ二回戦は、優勝候補と言われる新島学園。序盤は0が並びどちらが勝ってもおかしくない試合展開でした。しかし、味方の失策で先制され、追う形になってしまいました。迎

えた最終回、先頭打者が三塁打で出塁すると、連打で一点を返しましたが、後続が倒れ結局1対3で惜敗しました。

関東大会を通して、一点を守りきる大切さや失策をどのように打線でカバーしていくのかなど多くのことを学びました。この学んだことを次に活かしていきたいです。

応援ありがとうございました。

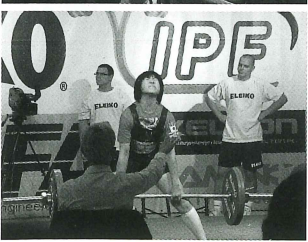
## 世界大会出場

パワーリフティング部3年 芳陵 青空

私達、パワーリフティング部員13名は、日々練習に励んでいます。パワーリフティングという競技は、スクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種類の試技を3回行い、そのうち最高重量を合計して競います。

3月に行われた全日本選抜大会では、皆、自己ベストを更新し、私は自身の日本記録を塗り替えることが出来ました。この競技は一見すると個人競技の様ですが、いつも一緒に練習してくれる仲間や指導して下さる先生やコーチ、試合の時に選手を励まし、支えてくれるOB、OGの協力があったことで、選手一人一人が持ちうる限りの力を出し切ることが出来ます。

今、私達は7月の全日本大会に向けて一生懸命練習しています。私はこの大会が最後の大会となるので、精一杯努力し、いつか後輩に目指してもらえようような最高の記録を残したいと決意しています。





# 部活動実績

## ▼硬式野球部

第65回春季関東地区高等学校野球大会  
茨城県大会 準優勝

第65回春季関東地区高等学校野球大会  
ベスト8

第62回土浦市長杯争奪市内大会 優勝

## ▼テニス部

関東高校テニス県南地区予選大会  
準優勝 【坂 拓省】

## ▼男子バドミントン部

平成25年度関東高等学校バドミントン大会  
茨城県予選会 優勝

【関東大会出場28年連続28回目】

平成25年度全国高校バドミントン選手権大会  
茨城県南予選会 県大会推薦出場

### 【個人】

シングルス第3位 【青木浩太郎】

ダブルスベスト8 【寺生秋成】

ダブルスベスト8

シングルス 優勝 【北島昂樹】

シングルス第4位 【鍋島光次】

ダブルスベスト16 【柴沼直樹】

ダブルスベスト16 【山添赳瑠】

ダブルスベスト16 【阿部つかさ】

ダブルスベスト8

シングルスベスト8 【岡田幸樹】

ダブルスベスト8 【高久友也】

ダブルスベスト16 【木内崇人】

ダブルスベスト8

シングルスベスト8 【佐久間亮輔】

ダブルスベスト8

シングルスベスト16 【武藤響】

### 【団体】

平成25年度関東高等学校バドミントン大会  
ベスト8

平成25年度全国高等学校バドミントン選手権  
大会茨城県予選会優勝

【インターハイ出場3年連続26回目】

### 【個人】

ダブルス第3位

シングルスベスト8 【小林陽平】

ダブルス優勝

シングルス準優勝

インターハイ出場

ダブルス優勝

インターハイ出場

ダブルス第3位

シングルス第4位

ダブルス第4位

シングルスベスト16 【青木浩太郎】

ダブルス ベスト32 【寺生秋成】

ダブルスベスト32

シングルスベスト16 【北島昂樹】

ダブルス準優勝

インターハイ出場

ダブルス第4位

シングルスベスト16 【鍋島 光次】

ダブルス準優勝

シングルス第3位

インターハイ出場

ダブルスベスト32 【林翔太】

ダブルス2回戦敗退

ダブルス2回戦敗退

ダブルスベスト8 【岡田幸樹】

ダブルスベスト32 【高久友也】

ダブルスベスト32

シングルスベスト32 【佐久間亮輔】

ダブルスベスト8

シングルス2回戦敗退 【武藤響】

### 【団体】

第10回茨城県私立高等学校バドミントン大会

優勝 常総A

準優勝 常総B

【団体】 全国高等学校バドミントン選手権大会

ベスト16

### 【個人】

ダブルス2回戦

シングルス1回戦

ダブルス2回戦

シングルス2回戦

ダブルス1回戦

ダブルス1回戦

【個人】 茨城県南高等学校バドミントン夏季大会

ダブルスベスト4

シングルスベスト32 【寺生秋成】

ダブルス第3位 【北島昂樹】

ダブルスベスト16

シングルス2回戦

ダブルスベスト16 【柴沼直樹】

シングルス2回戦

ダブルスベスト8 【山添赳瑠】

シングルスベスト16 【阿部つかさ】

ダブルス第3位

シングルスベスト4 【高久友也】

ダブルスベスト4

シングルスベスト16 【木内崇人】

ダブルスベスト8 【武藤響】

【個人】 第32回全日本ジュニアバドミントン選手権

大会茨城県予選

ダブルス第2位 【青木浩太郎】

ダブルス優勝

シングルス第2位 【木村亮介】

ダブルス優勝

シングルス優勝

ダブルス第2位 【林翔太】

ダブルスベスト4

シングルスベスト4 【岡田幸樹】

ダブルスベスト4 【佐久間亮輔】

### 【団体】

第18回全国私立高等学校選抜バドミントン大会

第13位

## ▼女子バドミントン部

【団体】 平成25年度関東高等学校バドミントン大会

茨城県予選会 優勝

【関東大会出場4年連続25回目】

平成25年度全国高校バドミントン選手権大会

茨城県南予選会 県大会推薦出場

### 【個人】

ダブルス第3位

シングルス優勝

ダブルスベスト16

ダブルス第3位 【飯村梨衣子】

ダブルスベスト8

シングルスベスト8 【谷中千尋】

ダブルスベスト16

シングルスベスト8 【小沼琴】

ダブルス第4位 【八木あかね】

ダブルス準優勝

ダブルス優勝

ダブルス優勝

ダブルス優勝

シングルス優勝

ダブルス優勝

シングルスベスト8 【渡辺真名】

### 【団体】

平成25年度関東高等学校バドミントン大会

ベスト8

平成25年度全国高等学校バドミントン選手権

大会茨城県予選会 準優勝

【個人】 大会茨城県予選会 準優勝

ダブルス第4位

シングルスベスト16 【比嘉満希美】



- ダブルス第4位 シングルスベスト16 【比嘉満希美】
- シングルス優勝 インターハイ出場 【森戸陽加】
- ダブルスベスト8 シングルス準優勝 インターハイ出場 【飯村梨衣子】
- ダブルス第4位 シングルス第4位 【上曾夏美】
- ダブルスベスト8 シングルスベスト8 【谷中千尋】
- ダブルスベスト8 シングルスベスト8 【小沼琴】
- ダブルスベスト8 シングルス第3位 【八木あかね】
- ダブルスベスト16 シングルスベスト16 【小野日向子】
- インターハイ出場 ダブルス準優勝 【内田彩佳】
- ダブルス準優勝 シングルスベスト16 【友水陽香】
- インターハイ出場 ダブルスベスト8 【福田芽唯】
- ダブルスベスト8 シングルスベスト8 【大手綾花】
- ダブルスベスト16 シングルスベスト16 【渡辺真名】
- 【団体】 第10回茨城県私立高等学校バドミントン大会 優勝 常総A 準優勝 常総B
- 【個人】 全国高等学校バドミントン選手権大会 シングルス2回戦 【森戸陽加】 シングルス1回戦 【飯村梨衣子】 ダブルス2回戦 【内田彩佳】 ダブルス2回戦 【友水陽香】
- 【個人】 第32回全日本ジュニアバドミントン選手権大会茨城県予選 シングルス優勝

- ダブルス優勝 【飯村梨衣子】
- ダブルスベスト4 シングルスベスト4 【上曾夏美】
- ダブルスベスト4 シングルスベスト8 【谷中千尋】
- ダブルスベスト8 シングルスベスト4 【八木あかね】
- ダブルス優勝 【小野日向子】
- 【団体】 第68回国民体育大会バドミントン競技 関東ブロック大会 団体Bブロック予選敗退
- 【団体】 第18回全国私立高等学校選抜バドミントン大会 第11位
- 【団体】 第68回茨城県陸上競技選手権大会 女子団体ベスト8 県南春季剣道大会 女子団体A準優勝 女子団体B3位 男子団体ベスト8
- 【個人】 優勝 【佐藤希】
- 3位 【石川佳苗】
- 【個人】 関東剣道茨城予選会 5位 【増田汐見】
- ベスト8 【杉森令依】
- ベスト8 【飯泉佳菜子】
- 【団体】 平成25年度インターハイ剣道競技茨城予選会 女子団体 3位
- 【個人】 ベスト8 【石井裕貴】
- ベスト8 【杉森令依】
- ベスト8 【増田汐美】
- 【個人】 第68回茨城県陸上競技選手権大会

- 男子1000m 第3位 【星野純希】
- 第42回茨城県高等学校陸上競技学年別選手権大会 2・3年男子5000m 第2位 【宮隼】
- 第86回関東陸上競技選手権大会 10000m 第10位 【星野純希】
- 第48回県南地区高等学校対抗陸上競技 新人大会 800m 2位 【高岡隆太郎】
- 800m 8位 【梅島早紀】
- 3000m 5位 【白川恵理菜】
- 3000m 8位 【多比良千穂】
- 5000m 3位 【宮隼】
- 5000m 5位 【佐藤柊耶】
- 5000m 7位 【星野純希】
- 3000m障害2位 【久松駿稀】
- 3000m障害5位 【塚田淳】
- 【陸上部】 県南地区高校陸上競技大会 1000mH3位 【蛭名史織】
- 県高校総体陸上競技選手権大会 1000mH出場 【蛭名史織】
- 第42回茨城県高等学校陸上競技学年別選手権大会 1000mH 5位 【蛭名史織】
- 1000mYH4位 【皆川渚】
- 第68回茨城県陸上競技選手権大会 1000mH 出場 【蛭名史織】
- 1000mYH3位 【皆川渚】
- 【水泳部】 第36回茨城県高校春季水泳競技大会 200mバタフライ1位
- 100mバタフライ3位 【河野稜】
- 500mバタフライ 6位 【本橋正樹】
- 1000m・2000m 背泳ぎ 1位 【大田原礼奈】
- 200mバタフライ1位
- 100mバタフライ3位 【北澤梓】
- 500m・1000m・2000m 自由形 1位 【市川朱音】
- 500m・1000m・2000m

- 背泳ぎ 1位 【三原海】
- 1000m・2000m 背泳ぎ 6位 【飯田美仁】
- 100m自由形 4位
- 500mバタフライ5位 【白石茉莉】
- 500m・1000m・2000m 平泳ぎ 1位 【出澤美和】
- 第89回 2013 日本選手権水泳競技大会 シンクロナイズドスイミング競技 出場 デュエット・チーム出場 【原田萌美】
- 第49回茨城県民総合体育大会水泳競技大会 女子総合 2位
- 男子総合 4位
- 200mバタフライ1位
- 100mバタフライ4位 【河野稜】
- 1500m自由形 5位 【鶴見悟】
- 1500m自由形 3位 【富山瑛太】
- 100m背泳ぎ 1位
- 200m自由形 5位 【三原海】
- 400m自由形 5位 【飯田佳祐】
- 200m個人メドレー4位
- 200m平泳ぎ 8位 【鈴木健太】
- 100m・200m 背泳ぎ 1位 【大田原礼奈】
- 200mバタフライ3位
- 100mバタフライ6位 【北澤梓】
- 400m・800m 自由形 1位 【市川朱音】
- 200m 個人メドレー8位 【田所諄花】
- 100mバタフライ5位
- 200m背泳ぎ 7位 【白石茉莉】
- 100m・2000m 平泳ぎ 1位 【出澤美和】
- 平成25年度第64回関東高等学校水泳競技大会県予選会 女子 総合第2位
- 男子 総合第3位
- 200mバタフライ1位 【河野稜】
- 1500m自由形 7位 【富山瑛太】



100m・200m

【三原海】

背泳ぎ 1位

1500m自由形3位

400m自由形 8位

200m平泳ぎ 7位

200m個人メドレー3位

400m個人メドレー7位

100m・200m

背泳ぎ 1位

200mバタフライ3位

100mバタフライ4位

200m・400m

自由形 1位

100m・200m

バタフライ 7位

100m・200m

平泳ぎ 1位

平成25年度関東高等学校水泳競技大会

男子400m・800mリレー出場

女子400m・男子400m

メドレーリレー出場

200mバタフライ出場

100m・200m背泳ぎ出場

1500m自由形

400m自由形 出場

200m個人メドレー

400m個人メドレー出場

100m・200m

背泳ぎ 出場

200mバタフライ

100mバタフライ出場

200m・400m自由形出場

100m・200m

バタフライ出場

100m・200m

平泳ぎ 出場

平成25年度全国高等学校総合体育大会

水泳競技大会

400mメドレーリレー出場

400mメドレーリレー出場

400mメドレーリレー出場

200m平泳ぎ

400mメドレーリレー出場

日本シンクロチャレンジカップ2013

デュエット・チーム出場

【原田萌美】

【弓道部】

県南A地区高等学校弓道春季大会

女子個人5位

第62回あやめ祭り大会

高校生射込の部 個人3位

平成25年度県南A地区夏季大会

女子団体3位

女子個人3位

【川村なつみ】

【パワーリフティング部】

茨城県高校パワーリフティング選手権大会

男子団体優勝

【個人】

男子83kg級 2位

女子57kg超級1位

男子66kg級 5位

男子59kg級 2位

男子74kg級 1位

男子66kg級 2位

男子66kg級 3位

男子59kg級 3位

男子83kg超級3位

第31回全日本高等学校パワーリフティング

選手権大会

男子団体戦8位

【個人】

女子63kg級 4位

男子66kg級 23位

男子74kg級 11位

男子59kg級 9位

男子66kg級 27位

男子93kg超級6位

女子72kg級 1位

2013年世界サブジュニアパワー

リフティング選手権大会

【アメリカ・テキサス州・キリーニング市で開催】

女子72kg級 4位

【スクワットの部2位】

【芳陵青空】

【卓球部】

関東高校卓球県予選

男子団体準優勝

県大会出場

シングルス3位

ダブルスベスト8

シングルスベスト20

ダブルスベスト8

ダブルスベスト8

ダブルスベスト8

ダブルスベスト8

【石山友也】

【平間万智】

【個人】

シングルス

ダブルス出場

シングルス出場

ダブルスベスト16

ダブルスベスト16

【倉持結】

【村松ひとみ】

【田中三起也】

【石山友也】

【平間万智】

【石山友也】

【村松ひとみ】

【倉持結】

【濱家翔子】

【桜井詩織】

【個人】

シングルス

ダブルス出場

ダブルス出場

ダブルス出場

ダブルス出場

ダブルス出場

ダブルス出場

ダブルス出場

ダブルス出場

全日本卓球選手権大会ジュニアの部県予選

女子ダブルス出場

女子ダブルス出場

【仲田真穂】

【倉金夕梨】

【ソフトボール部】

関東高等学校ソフトボール大会茨城県予選

準優勝

【ソフトボール部】

関東高等学校ソフトボール大会

ベスト8

【ソフトボール部】

国民体育大会茨城県予選会

準優勝

【チアリーディング部】

全国中学校・高等学校ダンスドリル

選手権大会2013

関東大会

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

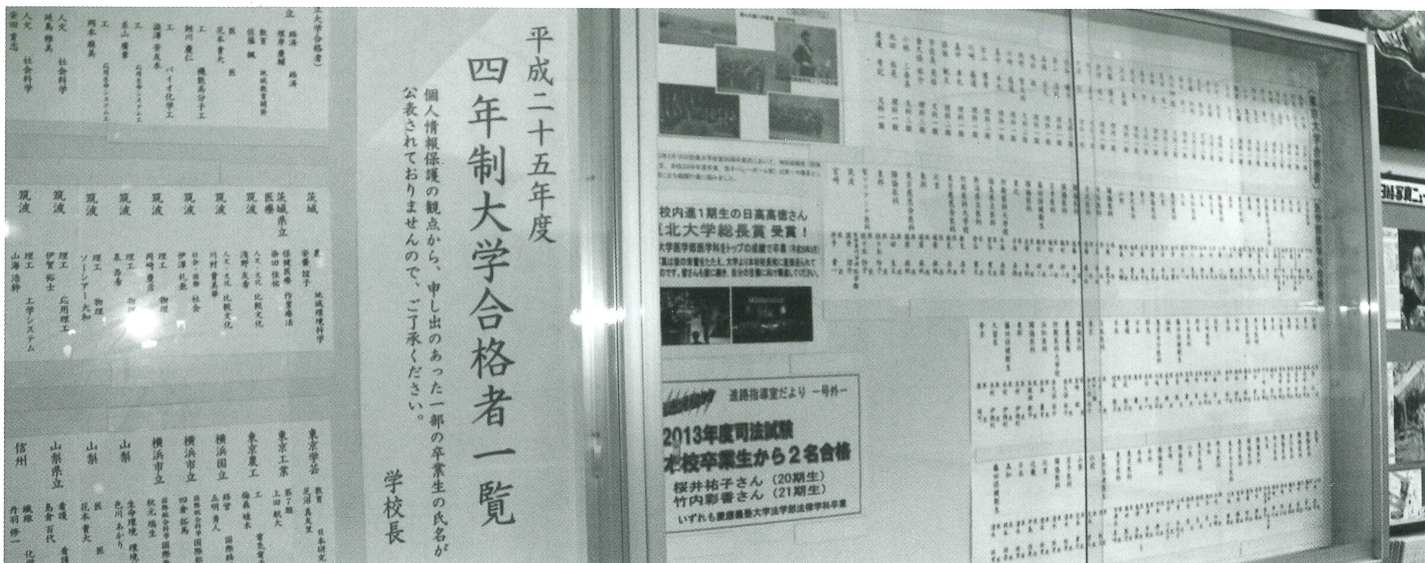
【チアリーディング部】

【チアリーディング部】

【チアリーディング部】



進路指導室より



# 近年の大学入試の現状と展望

進路指導室長 菅谷 博之

## 2013年度 大学入試結果総括

国公立大学は昨年同様志願者が多く、センター試験受験者も年々増加している。受験科目数が5教科7科目と私大に比べ受験勉強の負担が重い為合格者の増加が難しい現状もある。国公立大学の総合格数は94名で、100名を超える合格は出来なかったものの、現役で東大京大東工大、東京外語大を始めとする有名国立大学への合格が見られ、特に上位大学でかなりの健闘が見られた。

私立大学においては、早慶上智41名、G・T・M・A・R・C・Eで135名が合格し、特に早稲田大学においては、昨年度比3倍の合格者を出すことができた。私立大学のセンター試験利用の合格者も年々増加している。

志望学部に関しては、不景気の影響もあり、就職に有利な資格を取れる大学への志願者が増加し、理系学部では結果的に医療看護系の合格者が増加した。医歯薬学部のみでも59名が合格者をした。文系学部では、幼児教育、初等教育系の志望者の増加が顕著である。待機児童の問題や幼稚園の不足、幼稚園児の人口増加

や団塊の世代の大量退職等が背景にある。文系、理系共に、大学卒業後の就職を見据えて資格を取得できる大学に志願者が集まっているようだ。

医学部医学科については計10名、内国立大学3名と昨年同様2桁の合格者を出す事が出来た。特に国公立医学部合格には、東京大学合格レベルの高い学力が求められ、合格者数が伸び悩む状況が見られる。私大においても、医学部は偏差値70以下で合格できる医学部は無く、受かり易い私大医学部は見当たらないのが現状である。一方、学費の面では、医学部は国公立大と私大とでは大きな差があり、更に私大の医学部間でも、大学によってかなりの差が見られる。茨城県においては、医師確保の観点から、将来本県で医師として活躍できる人材に対し奨学金を出し学費の軽減を図る制度も設けられている。又、昨年度は、全国的に医学部の定員を約1割程度増やしている状況が見られるが、合格が得られ易くなった感じは全くない。



## 2014年度大学入試展望

2014年度入試は、現行教育課程の最後の入試。万一失敗すると新課程での入試となる為、浪人回避、現役合格が重要となる。受験生の数は前年度比96.6%の見込みでやや減少するが、新課程入試の前年である為、現役志向が一層高まり、中堅～上位の大学で志願者増、難化傾向となる事が予想される。私大においては、併願数の増加が予想される。入試内容の変更は、新課程の前年である為、殆ど無いようである。更に現役志向、安全志向が高まることで、進学先を早く決めたい受験者が増え、推薦・AO入試の志望者の増加も予想される。私大では、受験人数の拡大を図る為、近年「地方会場試験」「全学部共通試験」「複数学部出願による受験料の割引」「インターネット出願」が増えてきた。今年度も受験生のニーズに応える様々な対応が充実する見込みである。

特に2013年のセンター試験では、平均点がダウンし、全体的に弱気出願、安全志向が見られた。2014年は、新課程入試前年となる影響もあり、引き続き強い安全志向になる事が予想される。



## 進路指導室より

## 平成25年度入試 四年制大学入試合格者数 (2013年5月31日現在)

## 国公立大学

大学名	人数
北海道教育	1
弘前	1
山形	4
茨城	26
筑波	10
宇都宮	3
群馬	1
埼玉	8
千葉	2
電気通信	1
東京	1
東京外国語	1
東京学芸	1
東京工業	1
東京農工	1
横浜国立	1
山梨	2
信州	1
静岡	2
名古屋	2
京都	1
高知	1
宮崎	1
釧路公立	1
茨城県立医療	1
高崎経済	2
前橋工科	1
横浜国立	2
山梨県立	1
防衛大学校	12
職業能力開発総合大学校	1

## 私立大学

大学名	人数
城西	10
駿河台	3
獨協	9
文教	5
目白	7
神田外語	2
千葉工業	32
帝京平成	32
麗澤	1
和洋女子	6
東京医療保健	2
亜細亜	6
青山学院	5
大妻女子	3
学習院	7
北里	4
共立女子	3
杏林	5
慶應義塾	13
工学院	5
國學院	4
国士館	16
駒澤	14
白百合女子	2
実践女子	3
芝浦工業	4
順天堂	1
上智	5
昭和	3
昭和女子	7
女子栄養	6
女子美術	3
成蹊	4
成城	6
聖心女子	3
清泉女子	3
聖路加看護	1
専修	13
大東文化	9
大正	8
拓殖	11

## 私立大学

大学名	人数
岩手医科	1
東北福祉	1
獨協医科	2
国際医療福祉	5
日本保健医療	1
日本医療科学	2
跡見学園女子	5
明海	5

大学名	人数
高千穂	2
玉川	3
中央	19
帝京	24
東海	22
東京医科	3
東京家政	7
東京経済	4
東京工科	6
東京歯科	1
東京慈恵会医科	1
東京女子	5
東京女子医科	2
東京造形	2
東京電機	17
東京農業	11
東京薬科	2
東京理科	20
東邦	10
東洋	19
二松學舎	2
日本	40
日本社会事業	1
日本獣医生命科学	1
日本女子	6
日本体育	1
文化学園	4
法政	40
星薬科	1
武蔵	13
東京都市	4
武蔵野音楽	1
武蔵野美術	3
武蔵野	9
明治	25
明治学院	11
立教	19
立正	12
早稲田	23
駒沢女子	1
学習院女子	2

大学名	人数
神奈川	3
関東学院	4
産業能率	2
鶴見	5
フェリス女学院	2
帝京科学	13
松本歯科	1
名古屋外国語	1
藤田保健衛生	2
同志社	2
立命館	1
関西	1
近畿	2
関西学院	1
その他	62

## 【医学部医学科】

(国公立大)	人数
弘前	1
山梨	1
高知	1
(私立大)	人数
岩手医科	1
獨協医科	1
北里	1
日本	1
藤田保健衛生	2
近畿	1
医学科合計	10

## 【集計結果】

(総合格数)	
現役	772
過年度	135
国立	73
公立	8
大学校	13
私立	813
合計	907



再録

平成2年度  
マラソン大会

## 常総歴史館

本校創立以来続けられている年間行事の一つとして、1・2年生のマラソン大会が上げられる。立案者の石川秀男教諭はマラソン大会を始めた動機を「マラソン大会を体育授業の一環として取り入れ、マラソンを通じて自己の体力に挑戦させる。そしてクラス対抗で行うことによって、クラスの団結をはかることができるようにと考えた」と語る。

具体的なコースの選択には頭を悩ませたそうである。道路事情を考慮して、一般道路は走らせたくない。しかし、本校周辺では適当な場所が見つからず思案に暮れていたところ、学園都市内の遊歩道に目をつけた。学園都市内には公園が沢山点在しており、その公園が全部遊歩道で結ばれていたのである。そこで早速コースを組んでみた。一期生の走った10kmコースは、現在の女子10kmコースとほぼ同じである。二期生以降は洞峰公園を出発し、筑波メディカルセンターを回って帰ってくる、男子15kmと女子10kmの二つのコースを設定し、それが現在まで継続されている。学園都市内の施設・公園・遊歩道を利用するというので、利用の申請には苦労したそうである。遊歩道を使用するためには警察へ道路使用申請を出し、洞峰公園を使用するためには洞峰公園に施設利用申請を出さなければならない。さらにこれら遊歩道・公園等の使用を、つくば市役所に届出なければならなかった。その他、遊歩道の工事等がある度にそれを回避するための申請を出し直したりしながら毎回運営してきたわけで、担当の先生方には本当に頭が下がる思いで一杯である。

マラソンは個人種目であるが、それをクラス対抗の形で行うというのは、なかなか面白い考えである。自分さえ良ければという自己中心的な考えではなく、お互い助け合い励まし合ってゴールすることができるため、クラスの団結をはかるにはもってこいである。個人では、男子・女子それぞれ30位まで表彰され、メダルが授与される。クラスは上位3位までが表彰され、大メダルと賞品が授与される。マラソン大会終了後の表彰式は、楽しみの一つでかなり盛り上がる。

私は、本校赴任の1年目にこのマラソン大会に参加した。高校時代は校内16kmマラソンに参加した経験があり、体力には自信があった。しかし、10代の若者とどこまで一緒に走れるか、完走できるかどうか不安であった。そこで二ヶ月前から毎朝ジョギングをして体力づくりをし、一週間前の試走に臨んだ。

試走ではコースの確認と、完走のペースつかみをした。さていよいよ本番、当日は生徒と同様朝からそわそわしていた。「先生、年なんだから無理をするなよ」などと声をかけていた生徒が、走り出すと優しかった。「先生、頑張れよ」と何人も声をかけてくれ、励まされながらとうとう完走してしまった。走りながら、「何故こんな苦しい思いをしながら走らなければならないのだろう。生徒じゃないのだから歩いてしまおうか」等と何度もくじけそうになった。しかし、その度にここでやめたらこれから先、つらいこと苦しいことが出てきてもそれを乗り越えられない。この苦しみを乗り越えることが、人生の試練を乗り越えることにつながるのだと、自分自身に言い聞かせて走った。よく人生をマラソンに例えるが、まさにその通りだと痛感した。

石川教諭は次のように語る。「マラソンというスポーツと大学入試のための受験勉強は非常に似ていると以前聞いたことがある。マラソンで完走するということは大変つらいことであり、かなりの忍耐力を必要とする。しかし、ゴールインした時の達成感あるいは満足感というのは素晴らしいものがある。大学受験においても、途中でへこたれずに、計画通りに学習を継続するには、自分の強い意志と忍耐力が必要となってくる」。なるほど、成人した我々にとって人生とマラソンが共通面を持っているなら、生徒達にとってはマラソンと受験が置き換えて考えられるのである。

マラソン大会で身につけた体力と強い意志・忍耐力は将来必ず役に立つであろう。自己の限界に挑戦する素晴らしさを味わうために、今年も又走ってみたい。

(高橋 仁美 記)





第1回マラソン大会 開会式選手宣誓



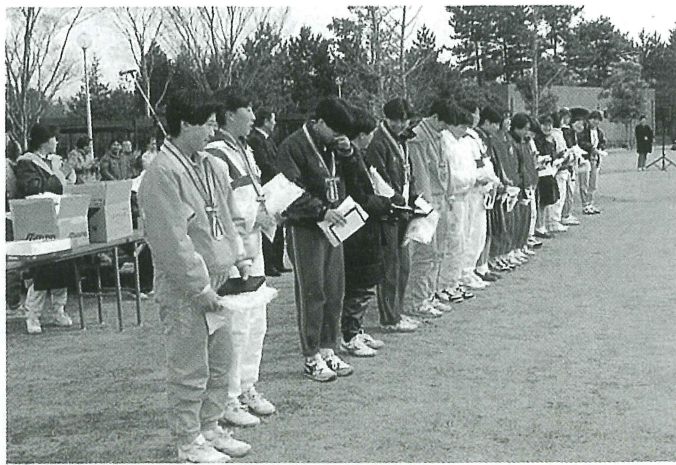
緊張のスタート直前



元気にスタート



折り返し地点まであと少し



笑顔と涙の表彰式



前年度まで掲載していた『職員室便り』に変わり、今回からは部活動紹介を掲載していく予定です。初回となる今回は、『吹奏楽部』と『応援指導部』です。

# 部活動だより

## 卒業生の皆さんが青春を過ごしたあの部活は今…! (平成24年度生徒会誌『常総』より)

### 吹奏楽部

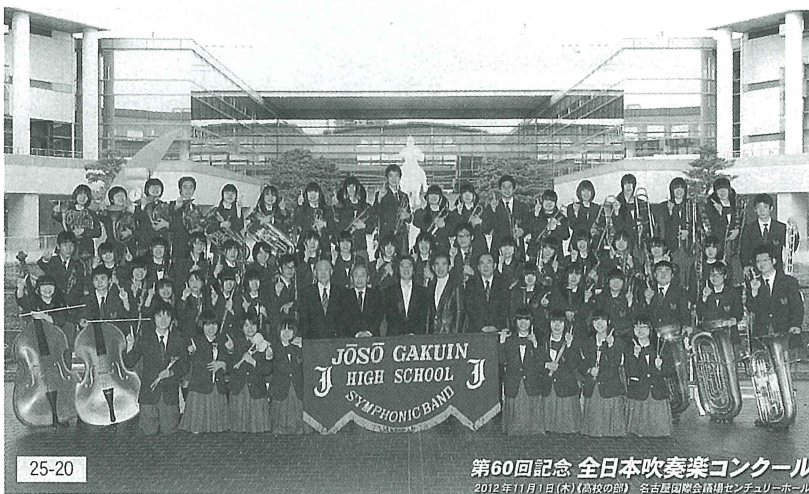
伊藤 暁 由

私たち吹奏楽部は、夏から始まるコンクールや十一月から始まるアンサンブルコンテストなどの大会、三月の定期演奏会に向けて日々練習に取り組んでいます。また、文化祭などの演奏や中学生を対象とした講習会などを通して中学生との交流も行っています。

常に、顧問の本図先生のモットーである『才能よりも努力』という言葉を胸に刻んで最後まであきらめずに練習し、本番では、自分達のできる最大限の演奏、周りの方々からいい演奏だったと思っていただけのような演奏内容を目指しています。

今年の十月、私たちは第六十回全日本吹奏楽コンクールに出場しました。会場の名古屋国際会議場・センチュリーホールに常総サウンドをいっばい響かせた最高の本番でしたが結果は銀賞でした。しかし、ここまで多くの方々から支えられて活動できたことを大変嬉しく思っています。今まで支えてくださった父母会の皆さん、学校関係者の方々、ありがとうございました。

これからも感謝の気持ちを忘れずにいい演奏を目指して活動していきます。最後に後輩へ、本図先生を信じみんなで一丸となり、二年後、名古屋で金賞を掴みとってください。



25-20

第60回記念 全日本吹奏楽コンクール  
2012年11月1日(木)【高校の部】 名古屋国際会議場センチュリーホール

### 応援指導部

金成 宏 太

皆様こんにちは。常総学院高等学校応援指導部です。我々は顧問の柳下先生、櫻井先生のご指導のもと元気に活動しております。

我々の活動は硬式野球部の応援を中心に行っています。我々は「応援という形で少しでも硬式野球部の力になりたい」という強い意志のもと日々練習に励んでいます。また、常友祭や新入生歓迎会などの学校行事では、リーダー公開を行い行事を盛り上げております。

我々鷹援指導部は現在、二年生部員が七名、一年生部員が三名で活動しております。応援団では基礎練習はもちろんのこと応援するうえで不可欠な「根性を」を養うべく日々鍛錬を重ねております。しかしながら、厳しい練習だけでなく毎年バーベキューを行うなど部員間も大切にしております。

我々は鷹援指導部としての自覚と誇りを持ち常総学院高等学校応援指導部の名を汚さないためにも、また、先輩方が築き上げてこられた伝統を守るためにも日々精進しております。

最後に、まだまだ未熟な我々ですがこれからも常総学院高等学校応援指導部をよろしく願っています。





■平成24年度 常総学院高等学校同窓会決算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日まで)

▼収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1.会 費	8,450,000	9,114,000	664,000	
卒業生会費	450,000	1,064,000	614,000	終身会費29名、会員57名
在校生会費	8,000,000	8,050,000	50,000	終身会費102名、会員555名
2.雑 収 入	25,000	14,222	△10,778	受取利息
3.前年度繰越金	64,788,939	64,788,939	0	
収入の部計	73,263,939	73,917,161	653,222	

▼支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1.消耗品費	100,000	50,386	△49,614	事務用品等
2.通信運搬費	900,000	781,927	△118,073	会報送料
3.印刷製本費	1,400,000	1,563,142	163,142	会報印刷代等
4.会議費	100,000	190,950	90,950	役員会時飲み物代等
5.旅費交通費	300,000	191,600	△108,400	役員会時旅費
6.部活動補助費	3,500,000	5,509,341	2,009,341	男女バドミントン部 硬式野球部等
7.記念品費	650,000	621,675	△28,325	コサージュ、生徒手帳
8.広報費	110,000	105,000	△5,000	新聞広告料
9.行事費	7,000,000	7,118,735	△118,735	マクロバス(2号車)等
10.雑費	200,000	136,425	△63,575	振込手数料等
11.次年度繰越金	59,003,939	57,647,980	△1,355,959	
支出の部計	73,263,939	73,917,161	653,222	

上記の決算書について諸帳簿関係証書を監査した結果、適正かつ正確であることを証明致します。  
平成25年5月11日 会計監査 久保田 美幸 前川 信史

平成24年度決算について

- 収入の部  
当初の予算額より卒業生会費の納入が増えた為、会費収入が増となりました。
- 支出の部  
男子バドミントン部・女子バドミントン部・ラグビー部・剣道部(個人)・チャリレーディング部・パワーリフティング部・写真部(個人)・硬式野球部(第94回全国高等学校野球選手権大会出場/第85回記念選抜高校野球大会出場)への各部活動補助、第2号マクロバス寄贈・卒業生・新入生への記念品等の事業活動を行いました。

■平成25年度 常総学院高等学校同窓会予算書(案)

(平成25年4月1日～平成26年3月31日まで)

▼収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1.会 費	7,790,000	8,450,000	△660,000	
卒業生会費	450,000	450,000	0	終身会費10名、会員50名
在校生会費	7,340,000	8,000,000	△660,000	終身会費100名、会員484名
2.雑 収 入	15,000	25,000	△10,000	受取利息
3.前年度繰越金	57,647,980	64,788,939	△7,140,959	
収入の部計	65,452,980	73,263,939	△7,810,959	

▼支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1.消耗品費	100,000	100,000	0	事務用品等
2.通信運搬費	900,000	900,000	0	会報送料
3.印刷製本費	1,600,000	1,400,000	200,000	会報印刷代等
4.会議費	200,000	100,000	100,000	役員会時飲み物代等
5.旅費交通費	300,000	300,000	0	役員会時旅費
6.部活動補助費	3,000,000	3,500,000	△500,000	硬式野球 男女バドミントン部等
7.記念品費	650,000	650,000	0	コサージュ、生徒手帳
8.広報費	110,000	110,000	0	新聞広告料
9.行事費	300,000	7,000,000	△6,700,000	常友祭テント代等
10.雑費	200,000	200,000	0	振込手数料等
11.次年度繰越金	58,092,980	59,003,939	△910,959	
支出の部計	65,452,980	73,263,939	△7,810,959	

平成25年度予算について

平成25年度予算は、平成25年度の事業計画と平成24年度の収支実績を勘案して編成いたしました。

- 収入の部  
卒業生の入会金、会費484名、会員年会費60名を収納予定として計上いたしました。
- 支出の部  
本年度の事業計画は、①第13号同窓会会報の発行②会員への同窓会会報郵送③各部活動への補助④卒業生・新入生への記念品が主なものです。これに基づき予算を編成いたしました。

平成24年度常総学院高等学校同窓会 会務分担表

担 当	本 部 役 員	学 校	主 な 業 務	担 当	本 部 役 員	学 校	主 な 業 務		
総 務	副会長 泉 琢 磨 副会長 布施谷 正人	岡田 慎一郎 林 克 俊 切 替 隆 喜 中原 僚 汰 山田 拓 也	飯塚 康 弘 仲野谷 宗治 櫻 井 亮 史	会議の招集・設営・進行 同窓会の総括的業務	事務局	副会長 伊 沢 勝 徳 副会長 長谷部 勝弘	平井 修司 野原 智子 上原 拓也 根岸 里明 小倉 江子 櫻井 勝佳 田村 江梨 深澤 武晃 乙高 正人 永井 康明 藤野 弘美 中島 貴代子 野間 百昭	田中 光惠 青柳 隆雄 片 山 章	事務局と相互連携
経 理	副会長 伊藤 哲也	内田 悠 佑 塚 本 勝 則	磯部 和 弘 祐 源 愛 大 海 聖 賀	予算編集と執行・決算 諸会費等の徴収		監 事	久保田 美幸	前川 信 史	本会会計の監査
会 報	副会長 山口 大 武	渡 辺 裕 次 伊藤 俊太郎 猪 瀬 高 美 川 井 由 美 子 津 村 大 也 米 山 真 也 倉 持 亜 季 子 土 子 和 之 岩 井 大 輝 内 田 大 樹 渡 辺 弓 明 高 野 義 明	牧 野 絵 美 谷 川 義 宜 松 林 康 徳 横 瀬 ま り 相 澤 千 亜 紀 理 沙	会報の編集・発行					



**科学の甲子園**

# 第3回 科学の甲子園

茨城県代表として全国大会へ  
**出場決定!!**  
(中高一貫生チーム)

**科学の甲子園とは**  
科学の甲子園は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が主催し各都道府県の教育委員会後援のもと、平成23年度より始められました。全国の科学好きな高校生がグループで集い、競い合い、科学の裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目指しています。競技科目は数学・物理・科学・生物・地学・情報および科学の実験など多岐に渡り、思考力・応用力・チームワークがより要求される内容となっております。

**これまでの出場校**  
土浦第一高校(茨城県代表2年連続)  
筑波大学付属高校・栄光学園高校  
灘高校・ラ・サール高校

平成26年度入試

# 速報!!

**防衛大学校**  
National Defense Academy of Japan Official Web Site  
(一次学科試験合格)

**合格者 45名**

## 常総学院中学校・高等学校

平成26年度 入学試験

中学校 <定員 160名>	高等学校 <定員 495名>
メディカルコース・リベラルアーツコース ■推薦(専願) 12月 8日(日) ■一般(第1回) 1月 7日(火) ■一般(第2回) 1月28日(火)	aコース・βコース (β6・β7) ■推薦(専願) 1月 9日(木) ■一般(単願・併願) 1月16日(木) ■併願型推薦(茨城県外受験者) 1月16日(木)

見学は、随時受け付けています。下記へお問合せ下さい。

お問い合わせ 中学校 TEL.029-842-0708(代) 〒300-0849 茨城県土浦市中村西根1010番地  
(入試広報部) 高等学校 TEL.029-842-8771(代) URL <https://www.joso.ac.jp/>

### 平成25年度より制服が 変わりました!!



品格・品性を象徴する色として古来から親しまれているスクールカラーのえんじ色をベースとしたブレザーです。男子はネクタイとチェック・無地のスポン、女子はリボンとチェック・無地のスカートになります。セーターやベストなどいろいろなバリエーションが楽しめます。

### 常総学院中学校1期生同窓会開催について

時期:平成25年12月29日(日) 時間:午後6時~  
会場:アンジェロコート東京(JR東京駅八重洲中央入口徒歩1分)  
住所:東京都中央区八重洲1-9-9 電話:03-6225-5491

幹事:熊野 秀俊 高橋 直之  
連絡先:090-2418-5653 連絡先:090-2486-5535

### 常総学院のホームページも リニューアル!

2013年11月25日から公開しています。是非ご覧ください。

## 編集後記

卒業すると母校の様子を知る機会には少なくなるもので、街中で制服を見かけたり、新聞記事に名前を見つけたりしたときに、懐かしさを覚えるのではないのでしょうか。

常総学院高等学校は今年度創立31年目、常総学院中学校は創立18年目を迎えました。今年から制服が新しくなりました。特に夏服はセーラー服となり、大変かわいらしいと評判の制服です。学校のホームページも心機二転、新鮮な雰囲気新たに公開される予定です。これからの母校の成長がますます楽しみになっています。

皆様のお力添えにより、今年も無事同窓会会報第十三号を発行することができました。在校生の活躍はもちろんのこと、社会で活躍する卒業生の皆様方のお借りして数多く紹介することで、同窓会会報が会員皆様の日々の活力になればと考えております。『卒業生からの便り』等にご協力をいただける方を、編集部ではいつでも大募集しております。より内容の充実した会報を目指していきたいと考えておりますので、お力を賜れる方は学校へご連絡ください。

今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

卒業生の皆様方ますますのご活躍をお祈りいたしております。

同窓会会報 祐源 愛  
編集委員一同